

珍しい交響曲 デンマーク Minor Symphonies Denmark

作曲者	生没年	交響曲の数	曲名	評価 ★★★★★:ぜひ聞いて欲しい ☆☆☆☆:聞く価値はある ※※:どちらとも言えない ×:聞く価値なし	コメント	○の曲のスコアは保有しています。	CD番号	レベル
Niels Wilhelm Gade	ゲーゼ	1817-1890	3	交響曲第1番(1842)	※※	第4楽章は民謡的です。	LPです。 H6060	Philips
Asger Hamerik	ハンメリク	1843-1923	7	交響曲第1番(1880) 副題"詩的な"	☆☆☆☆	4楽章で30分。ハンメリクは1871年ー1900年の間、アメリカに滞在していました。第1番から6番までの交響曲はアメリカで書かれたことになります。旋律の動きなどは18世紀の作品かと思うほどですが、金管のはでな音型などには新しさを感じられます。耳なじみの良い音が続くので気軽に聞くのにはふさわしい音楽です。	6.200002 交響曲全集	DACAPO
				交響曲第2番(1883) 副題"悲劇的"	☆☆☆☆	4楽章で43分。旋律自体はよくあるような物ですが、響きはだいぶ個性的になってきました。聞いていて気持ち良いです。		
				交響曲第3番(1884) 副題"抒情的"	☆☆☆☆	4楽章で35分。第1、2楽章にはメンデルスゾーンの雰囲気が濃いです。		
				交響曲第4番(1889) 副題"莊厳な"	☆☆☆☆	4楽章で38分。だいぶ仕掛けが大きくなりました。低音楽器(バスチューバ?)などの活躍が目立ちます。		
				交響曲第5番(1891) 副題"厳肅な"	☆☆☆☆	4楽章で36分。第1、4楽章の短調の響きが気持ち良いです。		
				交響曲第6番(1897) 副題"宗教的"	☆☆☆☆	4楽章で32分。弦楽のための作品特に第1楽章は聴き応えがあります。		
				交響曲第7番(1906)	☆☆☆☆	3楽章で35分。合唱付きほぼ宗教曲に聞こえます。		
				交響曲第1番(1892)	☆☆☆☆	4楽章で32分。若々しい気分に溢れています。	BMGビクター	BMGビクター
				交響曲第2番(1902) 副題:4つの気質	☆☆☆☆	4楽章で32分。第1番よりはおとなしくなっています。		

Carl August Nielsen	ニールセン	1865-1931	6	交響曲第3番(1911) 副題:おおらかな交響曲	★★★★★	4楽章で35分。特に第3楽章のおおらかな旋律が魅力的です。男声、女声のヴォカリーズも入ります。	○	BVCC-1074-76 交響曲全集	BMGピクター
				交響曲第4番(1916) 副題:不滅	★★★★★	4楽章で33分。特に第1, 4楽章は聴き応えがあります。	○		
				交響曲第5番(1922)	★★★★★	2楽章で57分。他のだれの作品にも似ていない個性的な交響曲です。	○		
				交響曲第6番(1925) 副題:素朴な交響曲	※※	4楽章で33分。やりたい放題をしている感じです。			
Paul von Klenau	クレナウ	1883-1946	9	交響曲第8番(1942) 古風な形式による	×	4楽章で14分。主にドイツで活動。副題の通り18世紀風の作りになっていて、面白味は全くなし。		8.244744	DACAPO
				交響曲第1番(1911) 副題:岩の田園詩	★★★★★	大編成のオーケストラが豪快に鳴ります。第1楽章はチャイコフスキーアラート。演奏時間1時間のこの大作を書いたのが作曲者17歳の時というのが驚き。		6.220525 6. 200001 交響曲全集	DACAPO
				交響曲祭2番(1914) 副題:春の目覚め	☆☆☆☆	第2楽章にグリーグのピアノ協奏曲の第2楽章に似た部分があります。第3楽章にはソプラノのソロが入ります。演奏時間37分。			
				交響曲第3番(1916) 副題:天を切り裂いて	☆☆☆☆	全3楽章ともピアノが主導し、実質的にはピアノ協奏曲。第3楽章の最後のほんの一部分に母音のみを歌う合唱がつきます。演奏時間28分。			
				交響曲第4番(1916) 副題:落ち葉	★★★★★	短い13の部分から成る単一楽章の作品。変化に富んでいて大変楽しめます。演奏時間23分。			
				交響曲第5番(1918) 第1版 副題無し	☆☆☆☆	4つの部分から成る単一楽章で演奏時間 14分。			
				交響曲第5番(1918) 第2版 副題:草原の自然	☆☆☆☆	5つの部分から成る単一で演奏時間 19分。第1版とはほとんど似ていません。ピアノも入ります。			
				交響曲第6番(1920) 副題:天国の嵐	★★★★★	7つの部分から成る単一楽章。主題と変奏からなるようです。聴き応えのある部分が多くあります。演奏時間21分。			
				交響曲第7番(1926) 珍しく副題無し	※※	4つの部分から成る単一楽章。演奏時間16分。だいぶ古めかしい感じで18世紀のような音もします。			

Rued Langgaard	ランゴー	1893-1952	16	交響曲第8番(1928) 副題:アメリエンボーの思い出	×	4つの部分から成る単一楽章。演奏時間18分。アメリエンボーはコペンハーゲンにある宮殿の名前。ピアノ、テナーソロ、合唱も入ります。ありきたりな音型に終始します。		6. 200001 交響曲全集	DACAPO
				交響曲第9番(1942) 副題:ダウマー妃の町から	※※	4つの部分から成る単一楽章。演奏時間21分。ダウマーはデンマークの昔の王女の名前。完全に19世紀の音楽です。平凡な部分が多いです。			
				交響曲第10番(1945) 副題:向こうに見える雷の住処	☆☆☆☆	単一楽章。演奏時間25分。変化に富んでいて聞き応えがあります。アッターベリ、タネーエフに似た雰囲気の箇所があります。			
				交響曲第11番(1945) 副題:イウクシーオン	☆☆☆☆	単一楽章。イウクシーオンはギリシア神話に登場する王の名前。とても面白く聞けますが、たった6分。!!			
				交響曲第12番(1946) 副題:ヘルシングボリ	☆☆☆☆	単一楽章。演奏時間7分。!!ヘルシングボリはスウェーデンの地名。第1番を思い起こされる響きもします。とても面白く聞けます。			
				交響曲第13番(1947) 副題:半信半疑	☆☆☆☆	7つの部分から成る単一楽章。演奏時間27分。ピアノやオルガンも入ります。またもや18,19世紀の音楽です。かなり俗っぽい部分もあります。			
				交響曲第14番(1948) 副題:朝	☆☆☆☆	7つの部分から成る単一楽章。演奏時間28分。冒頭から合唱が入ります。聴き応えはあります。			
				交響曲第15番(1949) 副題:海の嵐	☆☆☆☆	4つの部分から成る単一楽章。演奏時間17分。比較的新しい音がします。バリトンソロ、合唱が入ります。			
				交響曲第16番(1951) 副題:あふれ出る陽射し	☆☆☆☆	5つの部分から成る単一楽章。演奏時間21分。リヒャルト・シュトラウス風の曲。第1部ではホルンが大活躍。			